

新春
特報

ヤマハOX66(四輪F2レース用)
V6・2Qエンジン)発表!

新発売

NEW RZ50 SRX250F
メイト V50・V80/T50 YB50



'85ニューモデル相ついで登場!

装い一新で新登場

ニューRZ50

●標準現金価格…19万3千円(北海道、沖縄は3千円高)
●カラー…ホワイイト



原付から小・中型二輪へ、スクーターからスポーティブイクへ……お客さまのステップアップに欠かすことのできない50ccスポーツ。そんな50ccスポーツの雄・RZ50が、装いを一新して1月10日より新登場します。

ミカウルとアンダーカウルの標準装備。カラーリング・グラフィックの一新でレーシーイメージを大幅にアップ。最高出力も従来とおり7.2馬力とし、RZの身上であるシャープな加速性能を少しも損うことなく、60km/h最高速度規制に対応しているのも特徴です。

NEW RZ50の主な仕様諸元

●全長1910mm ●全幅685mm ●全高1120mm ●シート高760mm ●軸間距離1230mm ●最低地上高200mm ●乾燥重量76kg ●舗装平坦路燃費80km/ℓ(30km/h) ●登坂能力18° ●最小回転半径2m ●制動停止距離3.5m (20km/h) ●2サイクル・水冷・単気筒・49cc ●内径40mm × 行程39.7mm ●圧縮比6.9 ●最高出力7.2PS/9000rpm ●最大トルク0.62kg-m/8000rpm ●オイルタンク容量1.1ℓ ●燃料タンク容量10ℓ ●キャブレターVM18SS ●点火方式CDI ●点火プラグB8ES、B7ES ●バッテリー6V4AH ●1次減速比3.578 ●2次減速比4.000 ●リターン式6段変速 ●高張力鋼管セミダブルクレードルフレーム ●キャスト26°20' ●トレール85mm ●タイヤ(前)2.50-18(後)2.75-18 ●懸架緩衝装置(前)テレスコピックオレオ(後)モノクロスサスペンション ●ヘッドランプ6V25W25W

ニューカラーでヤング層獲得!

SRX250Fに新色追加

●標準現金価格…39万5千円(北海道、沖縄は6千円高)
●カラー…ニューヤマハブラック、シルキーホワイイト

1月16日より、SRX250Fにご覧のようなブラックとホワイイトを基調としたニューカラーが追加されます。

昨年6月の登場以来、着実にスポーツバイクの新しいユーザー層を開拓している「ライトスポーツ」SRX250ですが、この斬新なニューカラーモデルによって、特にヤング層を中心

としたさらに幅広い需要層の拡大を推進していただこうというものです。なお、標準現金価格、仕様諸元等の変更は一切ありません。



ニューヤマハブラック



シルキーホワイイト

業務用ツールとしての完成度を大幅アップ ヤマハメイトV50/80シリーズ

●標準現金価格/カラー
 V50…12万2千円/モスグリーン
 V50D…12万9千円/ニューハイスパークルグリーン、
 キャンディブルー
 V50ED…13万9千円/ニューハイスパークルグリーン

V50B…13万4千円/モスグリーン
 V80D…14万3千円/ニューハイスパークル
 グリーン、キャンディブルー
 (北海道、沖縄価格は、いずれも3千円高)

写真はV50D・ニューハイスパークルグリーン



V80D・キャンディブルー



V50をベースにより強力な装備をもち込んだ
 “お買得感”が好評のV50B

V50D/V80D仕様諸元 ()内がV80D

●全高1020mm(1025mm) ●シート高730mm(740mm) ●
 地上高130mm(135mm) ●乾燥重量77kg(81kg) ●舗装平坦
 (72km/h) (50km/h) ●登坂能力19°(13°) ●最小回転半
 離4m(20km/h) (9m(35km/h)) ●2サイクル・リードバル
 ●圧縮比6.8(7.0) ●最高出力4.7PS/6000rpm(6.7PS/
 0.57kg-m/5500rpm(0.82kg-m/4500rpm) ●オイルタン
 ク容量5.3ℓ ●ロータリー式3段変速 ●キャスト27
 1/25 ●テールランプ6 V5.3W ●ストップランプ6 V

おなじみ2サイクル・メイトV50/80シ
 リーズも、完成度をさらに高めて1月25日
 より新登場します。
 ここ数年、アンダーボーン、ビジネス市
 場は、業務需要比率を大幅に高めています
 が、これらお客さまの間では、月平均走行
 距離500km以上というように、走行距離
 使用頻度とも著しく増大し、また使い方も
 一段とハードになっています。
 そんなお客さまのニーズにいち早くお応
 えし、ハードユースに耐える、より高い完
 成度、を追求したのが、今回新登場するV
 50/80シリーズです。

▼ニューメイトV50/80シリーズの 新たな特徴

- ①オートサーモコントロール付キャブレタ
 ーで寒冷時のアイドリング安定性を向上
 新聞販売店さんなど早朝、寒冷時にお使
 いになるお客さまのために、アイドリン
 グの安定性向上を目指して採用したこの
 新メカニズムは、キャブレター側面にヒ
 ーターを設置。これが外気温5度でオン、
 15度でオフと自動的に作動して、ガソリ
 ンの霧化を促進し、アイドリングを安定
 させるものです。
- ②保温マフラーでテールまわりの汚れ解消
 エキバイ・マフラーとも保温構造として
 排気ガスの温度低下を抑え、不燃焼ガス
 の発生を防いでいます。これにより、2
 サイクルの弱点とされていたカーボン付
 着によるサイレンサーの目づまりや、テ
 ールまわりのカーボン汚れを大幅に改善
 しています。
- ③低速性能の向上
- ④アンダーボーン初のウーリーナイロン・
 シート採用
- ⑤スポーツバイクなみのウーリーナイロン
 ・シートを採用して着座感と耐久性を向
 上。またテラックスタイプには、このシ
 ートにキルティング加工を施しています。
 メーターまわり、タンクまわりのデザイ
 ン一新

タウンメイト50 ニューカラーで新登場

4サイクル・タウンメイトT50シリーズもT50D、T50ED、T50Cの3タイプが、ニューカラー・ラジカルグリーンで新登場します。(T50は従来のアロマグリーン)



写真は T50C



- ① 中低速性能の向上と騒音の低減 (マフラー内部構造の改良ほか)
- ② メーターパネルに電気式フューエルメーターを新設
- ③ 明るい30Wハロゲンヘッドランプの新採用
- ④ バッテリーにねに最適充電を行なうレクチファイヤー・レギュレーターを採用
- ⑤ コンデンサー式フラッシュャーリーの採用
- ⑥ メインスイッチとハンドルロックの一体化
- ⑦ 完全防水式エアクリナーの採用
- ⑧ ブレーキ、クラッチのハンドドルレバー部アジャスター追加
- ⑨ ブレーキ、クラッチレバーにカバーを装着してワイヤーの寿命向上
- ⑩ クラッチの耐久性向上

NEW YB50の主な仕様諸元

●全長1795mm●全幅720mm●全高1030mm●シート高760mm●軸間距離1165mm●最低地上高120mm●乾燥重量75kg●舗装平坦路燃費90km/ℓ (30km/h)●登坂能力18°●最小回転半径1.8m●制動停止距離6.5m (35km/h)●2サイクル・ロータリーバルブ・単気筒・49cc●内径×行程40×39.7mm●圧縮比7.1●最高出力4.6PS/6000rpm●最大トルク0.56kg-m/5500rpm●オイルタンク容量1.4ℓ●燃料タンク容量8ℓ●キャブレターVM16SC●点火方式CDI●点火プラグB7HS、BP6HS、W20ES、W20EP●バッテリー6V4AH●ロータリー式4段変速●プレスバックボーンフレーム●キャスト26°30'●トレール75mm●タイヤ(前)2.25-17(後)2.50-17●ヘッドランプ6V30W/30W(ハロゲン)●ストップランプ6V17W



お客さまの身になって、実質的な商品性を向上
ニューYB50
標準現金価格...13万円(北海道、沖縄は3千円高)
カラー...ヤマハブラック



●全長1840mm●全幅720mm●全高1030mm●シート高760mm●軸間距離1170mm●最低地上高120mm●乾燥重量75kg●舗装平坦路燃費95km/ℓ (30km/h)●登坂能力18°●最小回転半径1.8m●制動停止距離6.5m (35km/h)●2サイクル・ロータリーバルブ・単気筒・49cc●内径×行程40×39.7mm●圧縮比7.1●最高出力4.6PS/6000rpm●最大トルク0.56kg-m/5500rpm●オイルタンク容量1.4ℓ●燃料タンク容量8ℓ●キャブレターVM16SC●点火方式CDI●点火プラグB7HS、BP6HS、W20ES、W20EP●バッテリー6V4AH●ロータリー式4段変速●プレスバックボーンフレーム●キャスト26°30'●トレール75mm●タイヤ(前)2.25-17(後)2.50-17●ヘッドランプ6V30W/30W(ハロゲン)●ストップランプ6V17W

2サイクル・メイトV50シリーズはスタンダード、デラックス(D)、セル付デラックス(ED)、ビジネス(B)のワイドな5バリエーション。なお、EDタイプはオートサーモコントロール付キャブレターを採用していません。

新春
特報

四輪用ニューレーシングエンジン V6 2.0 DOHC 5バルブ 330馬力以上

ヤマハOX66発表!

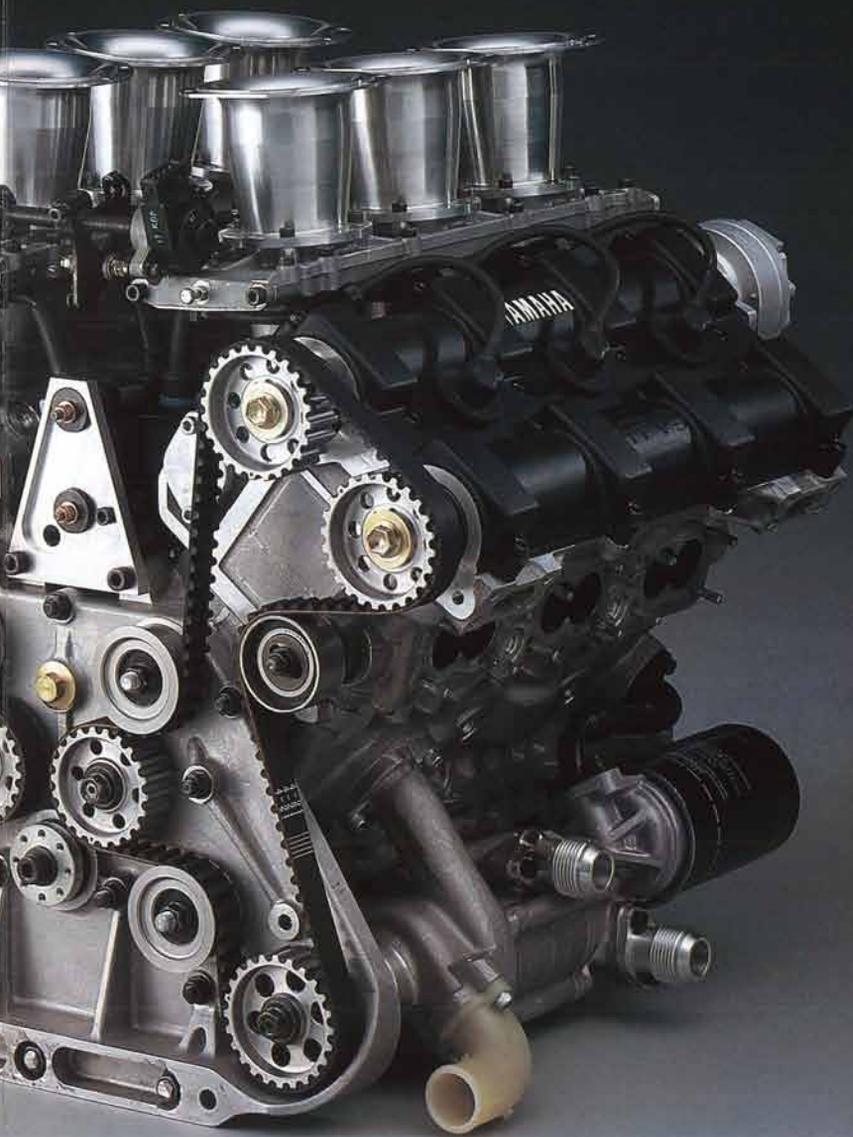
最先端のエンジン技術でF2レースに挑戦!

新年あけましておめでとうございます。
1985年、新しい年の幕開けに、ヤマハからビッグニュースのお知らせです。

すでに新聞報道等でご承知のように、このたびヤマハは、四輪用レーシングエンジン『OX66』を開発、ケン・マツウラレーシングサービスを通じ国内四輪レースの最高峰JAF・F2

レースに参加することになりました。緒戦は3月上旬、鈴鹿サーキットで行なわれる'85JAF・F2シリーズ第1戦。搭載マシン、ドライバー等は未定です。

先のケルンショー以来、世界の注目を集めるF2750の前傾・低重心、5バルブにつづくヤマハ・エンジン技術の成果に、どうぞご期待ください。



ニューレーシングエンジン・ヤマハOX66、
V6、1995cc、DOHC・5バルブ+EFI
で330馬力以上を発揮

フロントポで最高次元の バランスを追求

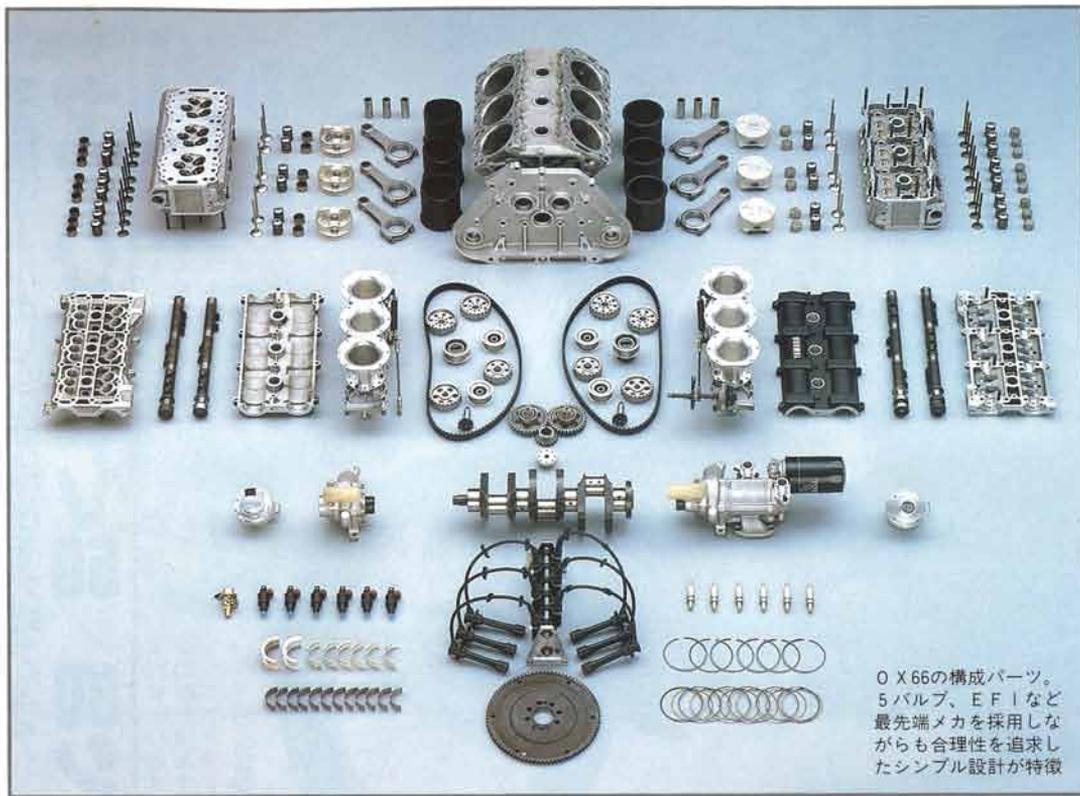
この四輪用レーシングエンジン『ヤマハOX66』は、ヤマハが長年にわたって培ってきたエンジン技術を結集して開発したもので、高回転、高出力をテーマに、ターボチャージャーを用いることなく最高次元のバランスを追求しています。

設計の狙いは、次の4点――

1. バランスのよい高性能の実現
2. 一般市販を前提としたすぐれた整備性
3. 徹底した軽量化・コンパクト化
4. 扱いやすさを高める幅広いパワーバンドの確保

5バルブ+EFIで 330馬力を確保!

この結果、V型6気筒のシリンダーは、ボア・ストローク比0・688と高速回転に適した超ショートストローク



OX66の構成パーツ。5バルブ、EFIなど最先端メカを採用しながらも合理性を追求したシンプル設計が特徴

●ヤマハOX66仕様諸元

シリンダー配置	75°V型6気筒
総排気量	1995cc
ボア×ストローク	85.07mm×58.5mm
ボアストローク比	0.688
圧縮比	12.0:1
最高出力	330ps以上/11,000rpm
最大トルク	23kg-m以上/9,000rpm
許容回転数	13,000rpm
バルブ配置	5バルブ/1気筒
カム駆動方式	プライマリ・ギヤ/セカンダリ・タイミングベルト
シリンダブロック	アルミ鋳造、鉄鉄ウェットライナー
燃料系	電子制御燃料噴射
点火系	電子制御CDI
重量(ドライ)	105kg
寸法	長さ:約420mm 幅:約550mm

80社、200名にのぼる報道陣の前にOX66を説明するヤマハ発動機・田中俊二取締役と榎ケン・マツウラ・レーシングサービス・松浦賢社長(右)



四輪F2レースの現状

現在わが国で行なわれているフォーミュラカーレースは、FJ1600、F3、F2の3レース。このうち、排気量2000cc、ノンターボ・6気筒までのエンジンで行なわれるF2レースが、国内最高峰の四輪レース。エンジンはBMW(西独)、またシャーシは英国のマーチが主流を占めています。国内最大のイベント、JAFグランプリも、このF2レースにかけられ、例年全日本F2選手権・鈴鹿F2シリーズの最終戦として行なわれています。一方、71年からスタートした富士グランチャンピオンシリーズも、F2と並ぶレースとして人気を高めています。これもF2とほぼ同一のエンジン規定によって行なわれています。

クタイプを採用。同時にシリンダーのVアングルも75度として幅も狭く、高さも低いかわめてコンパクトなエンジンにまとめあげています。

さらに、開発当初より市販を前提としていたことから、特に整備性に重点を置いて、合理的設計に徹したシンプルな構造となっていますが、これが同時に軽量化にも大きな効果を与えています。

DOHCの動弁系には、世界に先がけてヤマハが開発した、いま話題の「5バルブ」を採用。燃料供給も新開発の電子制御式燃料噴射(EFI)方式として、許容回転数13000rpmという高速回転を可能にしています。

最高出力330PS以上/11000rpm、最大トルク23kg-m/9000rpmという高性能に加え、きわめて幅広いパワーバンドを備え、最高出力の2分の1に回転を落としてもなお有効なパワーが引き出せるというフレキシブルな特性を確保しています。

ケン・マツウラ・レーシングサービス

今回、ヤマハから「OX66」の提供協力を受けJAF・F2レースに参加(エンジン供給)していくこととなった榎ケン・マツウラ・レーシングサービスは、愛媛県北条市に本拠を置く、わが国に数々のレーシングエンジン・チューナー。欧米のエンジン・チューニング会社に例の多い兄弟による同族会社で、代表は松浦賢氏。F2をはじめ、FI、F3と幅広い実績を誇り、その評価は国内外に及んでいます。特に国内F2/富士・グランチャンピオンシリーズにおいては、10年間、20回のうち18勝をマークし、日本最高の記録をおさめています。





ヴェール脱いだFZ750の前傾・低重心エンジン

発進! ジェネシス



ご覧ください!

これが'85年欧米モデル・FZ 750の全容です。

メカニズムのすべてをトータルパフォーマンスへと集約し、より多くの人びとに高性能マシンを操る喜びを分かち与えようとする、ヤマハ独自の4サイクル・ハイパフォーマンス・モーターサイクルの設計思想から生まれたFZ750。

そして、この設計思想は、いま“ジェネシス”と名付けられ、海外市場へと送り出されます。

ジェネシスとは“創世紀”

ジェネシスとは、モーターサイクルの新世紀を拓く、ヤマハ・4サイクル・パフォーマンスのシンボルです。

特集：'85年、さらに広げようバイクの世界

思えばこの1年、バイクの世界は飛躍的な広がりを見せてきました。スクーターは、ヤングの暮しに“あつて当たり前”の生活道具として定着し、スポーツバイクも老若男女を問わぬ多くのひとに、じつにさまざまなスタイルで楽し

まれるようになっていきます。

さて、こんな傾向はどこまで拡大していくのか？ またそれを促進するために販売店さんはどんな活動をしているのか？ いくつかの事例を追ってみました――

ヘルメットからはみ出した黒髪をなびかせて、さっそうと走り去る女性ライダーの姿が最近めっきり増えて来たと思いませんか？ 彼女たちこそ、バイクライフを存分にエンジョイしている人たちの最右翼。特にスポーツバイクは女子大生やOLの新しい趣味生活としても、定着しつつあるようです。

昼は皮ツナギでサーキットラン、夜はドレスアップしてパーティ



受車 FZ400R を駆って横浜から参加した22才の女子大生・岸本圭子さん(上の写真左)の愛身ぶりのみことなこと

こんな傾向をはつきりと立証してくれたのが、昨年11月、スポーツランドSUGOで開かれた「平忠彦選手とともにサーキットラン・女性ライダーの集い」。

全国から愛車を駆ってつめかけたギャル・ライダーの数は30名。中にはフルオーダーの皮ツナギという女性も含め、本格的ライディング装備で、全員初体験のサーキットランに取組んでいました。もちろんスタイルだけではありません。パドックに戻れば、先導役の平選手に「FZ400RとYZR500じゃギヤチェンジが逆でしょ。間違えませんか？」なんて専門的な質問も飛び出すほど。そして、夜のパーティともなるとステキにドレスアップして、SUGOのナイトライフを満喫する姿などは男性ライダー諸兄にも大いに見習って欲しいところでした。



みんなまで走ればウマクなる。カルチャー教室感覚で楽しむ呉レディースクラブ「ハスキー」

女性ライダー急増の傾向は、日本全国至る所で行なうことができますが、お客さまのこうした動きを健全に育成しようという販売店さんの活動も顕著です。

広島県呉市の松井モーターズ(松井武社長)さんもそんな1店。同店では10年の歴史を誇るモトクロスクラブ、5年前から始めたツーリングクラブにつづいて、昨年10月から奥さま万治子さんが中心となって女性だけのツーリングクラブ・呉レディースクラブ「ハスキー」を結成したのです。

「以前は女性がスポーツバイクに乗っているだけで呉中のライダーの噂になるくらいでしたが、今じゃちっとも珍しくない。でも彼女たち、いつも1人で走ってるから言っちゃ悪いけど下手なんです。教習所で中型免許を取ってすぐ路上……。誰かに教わりたくても同性の先輩なんていないし、男性には声をかけにくい、販売店も男ばかりですからね」と語る松井社長。それだけに、奥さまの女性クラブ結成の提案には双手を上げての賛成でした。

「体力が無い、経験が無い、メカに弱い、そのうえ良いライダーがいなくて苦勞して免許を取った女性ライダーの足を引っさばるばかり。バイクだっただけに嫌いになってしまおうでしょう。そんなことのないように、女性同志と一緒に楽しめればと思っただけです」と奥さま万治子さん。

店頭の雰囲気も一転!

結成に参加したメンバーは9名。みんな走って、みんなで上手に、が合言葉です。

「女性には、この「みんな」が大切なんです。カルチャー教室感覚ですね。当初はツーリングを中心に、楽しみながら走り方やメカをマスターして行くとお客さまとも話



「今年は女性ライダーの輪をもっともっと広げたい」という松井社長と奥さま・万治子さん



しているんです。幸い主人も協力的で、ツーリングにも同行してくれ、バイクのトラブルもみんなの前で実際に直したり、後の反省会でも1人1人のフォームや安全運転のアドバイスをしてもらったりしています。お客さまからも「1人の時の不安感がないから」と大好評。この春には初の長距離ツーリングにチャレンジしようって盛りあがってるんです」

職場帰りのお客さまが立寄ってお店が一番活気づく夕方の松井モーターズさんの店頭には、最近女性の顔が目立って増えているといえます。そして、こんな女性たちに、男性のお客さまたちが大いに理解を示し、声援を送っているのは、予想外の収穫であったともいいます。

「頑張つて」と声をかける男性。気軽にアドバイスを与えているヤング。「スポーツバイクの女性客が増えたおかげで、店の雰囲気もとてもよくなってきました。彼女たちのバイクライフをもっともっと拡大するために、今年にはガンバラなくっちゃ」と発案者・万治子さんの意欲も最高です。

←MFJのワッペンを貼ったお揃いのジャンパーも好評

↓11月18日に行なわれたクラブ結成記念ツーリング。「1日中走ったのは初めて」とか「次は中型免許をとってSRX250で……」なんて声も上がっています





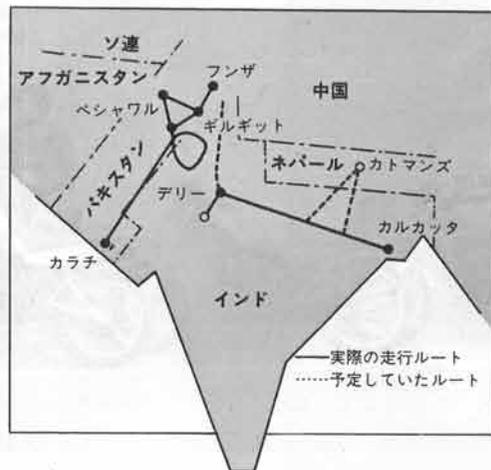
テネレ2台 シルクロード 師弟で走った夢幻街道

お客さまのバイクライフの拡大ぶりを物語るものとして最近頻繁に聞かれるのが、海外へのツーリングやラリーなど海外レース出場の話です。多くは、バイクを駆って積年の夢を果したり、自分の可能性に挑戦してみようというものです。2台のXT600Z・テネレを駆って高等学校の先生とその教え子がくりひろげたインド亜大陸横断、6000キロの旅もそんなひとつです。

↓出発前に萩野谷先生にテネレの乗り方指導をしたり、この旅行をサポートした山田モーターズのみなさんと（左から熊谷さん、山崎さん、佐川さん、そして萩野谷先生）



夏も盛りを迎えた昨年の7月21日、茨城県でも有数の進学校で教鞭をとるひとりの先生が、かねてから抱きつづけていた思いを果そうと、二輪販売店に勤務す



●'85年、さらに広げようバイクの世界



る教え子とともにXT600Z・テネレを駆ってシルクロードへと旅立って行きました。

バイクを通じて何ができるのか、若者たちに何を訴えられるか——そう考えつづけていた萩野谷芳一先生・45才（茨城県立日立一高）と日立市の山田モータース（山田幸平社長）さんに勤める熊谷孝二さん・32才のお2人です。

アフガン・パキスタン国境近くのマラカンドを走る2台のXT600Zテネレ。高地とはいえ緑も多く、爽快な走りが楽しめた



まん中の2人、現地のバイク青年ファヒム君とマームード君が熊谷さんの体調を大いに気づかってくれた



行く先々で出会った人には、必ずタンクにサインをもらった。こうしてテネレのタンクはサインだらけに……



●もうひとつの大的目的を持って……

萩野谷先生が、かつての教え子・熊谷さんにインド亜大陸横断ツーリングの話を持ちかけたのは、ちょうど旅立ちの1年前。'83年7月。卒業後も山田モーターズさんで働くかわら山登りやバイクを通じて萩野谷先生と交流をつけ、しかも互いに無類のアウトドア好きということもあって熊谷さんも恩師の提案にふたつ返事でOKしたのである。

「思い切りバイクを走らせてみたい」そんな共通の夢を持ちながら、計画は着実に練り上げられていきました。しかし、この旅にはもうひとつ大きな目的がありました。それはアフガニスタン難民に救済金を届けようというもの。そのための募金活動や手続きなどに1年が費やされたのです。

予定されたコースは、インドの東玄関・カルカッタから北部山岳地帯へ向かってカトマンズに入り、一度テリリーへ戻って、再び北上をつづけネパールからアフガニスタン沿いのペシャワールまで。そこで難民キャンプを訪ね救済金と医薬品を届けた後、パキスタンのカラチへと抜ける、全6000キロの行程です。(前頁地図参照)

●テネレしかなかった!

インドを通る幹線道路は、比較的条件が良いというものの、標高4000メートル近い山岳地帯を走ったり、摂氏40度以上の砂漠を越えたりしなくてはなりません。パートナとなるバイク選びが、計画の成否を決定づ

ける大きな要因です。2人は、慎重に討議をくりかえし「XT600Z・テネレ」を選びました。「改造の必要もなく、真に頼れそうなヤツ」といったらこれしかなかった(萩野谷先生)というわけです。

●恐いほどの清澄感

8月4日、大勢の現地人に見送られて35キロもの荷物を積んだ2台のXT600Zテネレは、勇躍カルカッタを出発しました。

途中、テリリーから先は予定のラクダツト行きが、シーク教徒紛争のあおりを受けて不可能になったものの8月22日、2人は無事パキスタンのフンザへ到着。

中国との国境に近いフンザは、ヒマラヤ山脈のテイランピックを眼前に控えた街。ここで2人は、地元青年2人と、タンテムツリーニングで水河をめぐり、標高3000メートルの景観を堪能。この時の空の碧さを、熊谷さんは――

「チリひとつない空気の中をどこまでも走りつづけていると、まるで眼の前に巨大な青い壁があるようで、恐怖さえ感じました」と話します。そして、この日ホテルに帰った熊谷さんには、発熱と嘔吐でギルギットの病院に1日入院するという貴重な体験も加わってしまいました。

8月28日、シルクロードの十字路・ペシャワールへ。ここで目的のひとつであったU.A.A.R(アフガニスタン難民救済組織)を訪れ、日本から運んだ4100ドルを寄附。翌日も難民キャンプを回り、ワルサク孤児院で両親を失った子供たちに、医薬品を手渡したのです。

●2日間

14000キロの単独行!

しかし、その後も熊谷さんの体調は回復せず。途中で知り合った2人のバイク青年とその家族のお世話になったりもしましたが、回復の兆しも見えないところから、熊谷さんはやむなく列車でカラチへ向い、残された14000キロの道を萩野谷先生が単独で走ること



カラチモトライダーズクラブの人たちと一緒にツーリングを楽しんだ



カラチのヤマハディーラーのショールーム前で人なつこい現地人に囲まれて



になりました。

「言葉も不自由なカラチの街で、熊谷君を何日も待たせることはできない」と、この時萩野谷先生は、1400キロを2日間、で走る決心をしました。インダス河を駆け下るようになり、「強盗が出るから1人では行くな」と言われたルートを突破し、摂氏43度の砂漠の中の小さな村をいくつも通り抜けます。

「熱風の中の走行は疲労も極限に達し、時どきバイクを止めては、村人に頭から水をかけてもらいました。それでも走りながら夢を見るんです。幻覚です。そんな時もテネレは何事もないように走りつづけてくれました」

こうして9月9日、夜9時30分、萩野谷先生は無事熊谷さんの待つカラチに到着。57日間にもおよんだシルクロードの旅のフィナーレを迎えました。

●はかり知れない収穫を得て

「旅に出たらその土地の空気を吸い、その土地の人と同じモノを口にし、同じ言葉で挨拶する」これが萩野谷先生のポリシー。「一番大切なのは、人との出会いだ」というわけ

です。「その土地を理解するには、自分の足で歩くのがベスト。でもバイクはそれに一番近い道具だと思えます。土の匂いをかきわけ、大気のぬくもりを肌で感じるために、今回は最初から迷わずバイクツーリングを考えました」一方、無念のリタイアに終わった熊谷さんも「この旅でじつに多くの人と会い、多くのことを学びました。勘に頼らず、基本に忠実にエンジン調整をしてくれた、現地の幼ない整備士たちには見習うところも多かったし、病んで倒れた時の人たちの親切も忘れることはできません。」

でも先生の言う「出会い」が本場の旅の目的なら、ホクは自分自身と出会えたこと、自分の生き方を振り返ることができたのが、最大の収穫だったと思います。」

バイクを駆って貴重な体験を終えたお2人は、いま再び「バイクで中国大陸を横断しよう」という、次の夢をふくらませています。



今年にはYESSでお客さまのバイクライフを広げよう！ とはりきる茨城県YESS加盟店のみなさん

今日だけは、お客さまの気持になって… YESSバイク運動会「テストトラン」

最も身近か、最も手軽なカタチでお客さまのバイクライフを拓けているのは、いうまでもなくバイクを使った「遊び」の世界。そして、'85年これをさらに普及している、というのがYESS。最後に紹介するのは、YESS加盟店さんが自からトライしたYESSイベント・テストトランの模様です。

YESS ― ご承知のとおり、それはお客さまとお店、そしてヤマハが一体となって展開する新しいモータースポーツ普及活動。

昨年夏の加盟店さん募集開始以来半年、当初予定を大きく上まわる多くの販売店さんに加盟いただき、一日と活動内容を充実させてきました。

もちろん、YESSの活動はロードレースやモトクロスなど本格的なコンペティションの世界とは限りません。いや、それよりもむしろバイクを素材としたさまざまな「遊び」を広く提供し、お客さまそれぞれのバイクライフを大巾に拡大して、いつまでも長くバイクと親しんでいただこうというものです。

こうしたYESSの主旨を頭に、では一体バイクを使った「遊び」ってどんなものがあるんだろう、それはお客さまにとってどんな楽しさがあるんだろう、またそれはどんな形でお客さまに提供すればよいのだろう ― と考えたYESS加盟店さんが、それぞれの立場に立ってテストトランをしてみよう、と実施したのが、この「YESS運動会」です。

●社長さん、奥さまに 従業員さんも参加して

このYESS運動会を開いたのはヤマハ東京関東支店・水戸営業所管内のYESS加盟店・30店さん。会場の茨城県笠間市「茨城スポーツランド」には、各お店から社長さん、従業員さん、さらに奥さままでが参加して、一日を過ごしました。

この日のプログラムは、ミニバイクレース、ミニバイク障害物競争、三輪レース、三輪障害物競争、さらにミニバイク・三輪混走の30分耐久レースなどなど。また昼休みにはバーベキューを囲み、クイズ



考えるのと、走るのでは大違い、予想もつかぬ楽しさがつぎつぎに発見できる。社長さん従業員さんのペアチームで競ったミニバイクと三輪混走の30分耐久レース



昼休みにはバーベキューを囲んで、この日ばかりはお客さま気分

大会を楽しむというように、お客さまを迎えて行なう本番さながらの内容です。

●予想を越えた楽しさの拡がり

そしてレースそのものも、持参のスクーターでモトクロスに挑戦する社長さん、初体験の三輪に苦闘する奥さま、さらにミニバイク・三輪混走30分耐久レースではポエットとMR50のデッドヒートに三輪YTがからむ大接戦まで出現して、とてもテストランとは思えぬ盛り上がりを見せていました。

「今日のテストランでY.E.S.S.の活動のひとつのイメージがつかめました。こうした積極的な遊びの提供は、今年の商売には特に必要になって来るとして来ようね。お客さまの気持ちもよく理解できましたよ」とは、ミニバイクで、また三輪で大ハッスルのオートショップ寺門(那珂郡)寺門邦久社長。

「オンロード、オフロードそしてトライアル、とうちには3つのクラブがありますけどそんな枠を越えて、広くお客さま同志、お客さまと店の交流を深めるのに、こうしたイベントは最高ですね」と奥さま、従業員さん含めて総勢5名が参加したオートショップ大月(西茨城郡)大月一彦社長。

このように、今年Y.E.S.S.加盟店さんによるさまざまな「遊び」の提供は、そのままお客さまのバイクの世界拡大に直結するものとなりそうです。

では最後に、85年お客さまのバイクの世界を拡大するために、販売店さんはどんな活動をすればよいか？ お客さまからどんなサポートが求められているのか？ 今回の特集をまとめるに当たってお聞きした多くの販売店さんの体験談をもとに、まとめてみました。

お店の人のひと言で お客さまのバイクライフは格段に広がる

●固定観念を捨てて お客さまに接する

現在すでにスクーターやバイクに乗っているお客さまに対して、彼らのバイクライフ拡大のためにまず必要なことは、どうやらお店の方ご自身が、固定したイメージを捨ててお客さま1人1人に接することといえそうです。ジョグに乗って高校から下校後、近くのフリーストフードレストランにアルバイトに行



くA君は、走りも、スタイルも、使い勝手もすべて満足。ジョグのおかげで行動的な高校生生活を送分にエンジョイしています。しかし、だからといってお店の方もA君と一緒にになって、「満足」していいのでしょうか？

生活の足としてしかスクーターに乗らないA君に「たまにはスクーター・ツーリングに行ってみない？」とか「いま君と同年代の人たちが、近所のカートコースで日曜日ごとにスクーターレースを楽しんでいるよ」などと話しかけてみてはいかがでしょうか……。お店の人のこんなひと言がA君のスクーター・ライフ拡大のキッカケとならないと誰がいえるでしょう。

これをさらに進めてA君にスポーツバイクの楽しさを教える方法を考えてみましょう。「スクーターは高校時代だけ、18になったら即四ツ輪だ」と中型免許など目もくれないA君にスポーツバイクの楽しさを教えるのは、ちょっと大変です。しかし、スポーツマンなら走りの楽しさやライディング・テクニクの話、おしゃれな高校生ならファッション面やライディングウェアの話……といったようにどこかに必ずその糸口はあるはずですよ。

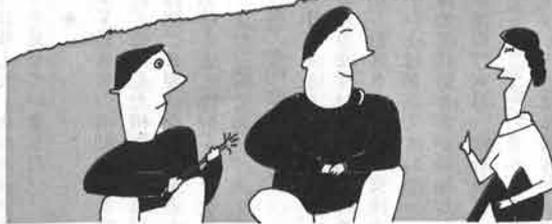
おなじことが、スポーツバイクのお客さまにも言えます。「Bさんは、大のオフロードファンだからFZ750には興味などなくて当然」「FZ400RのC君に、林道ツーリングの話なんて……」そんな思いが、無意識のうちにもありませんか？

●新規開拓も広い視野で

オフロードファンのAさんが林道への往復に走るワインディングロードを、「一度はRZで走ってみたい」と思っていたとしても決して不思議ではありません。逆にC君は、オフロードランのことなど考えたこともないのでしょいか……このように、お客さまご自身が全く気づかなかつたり、無縁だと思っている世界を、お客さまに提供してあげる。その世界へ踏み込むための糸口を与えてあげる、それがお客さまのバイクライフを拡げるために、お店の方がしなければならぬ第1ステップ。そのためには、お店の方がまず固定した考えを捨てて、お客さまに接することだ、というわけです。

固定観念を捨てることは、新規ユーザーの開拓にも不可欠のことです。東京都内のあるYSP店さんは「ツーリングだ、レースだ、といっってはうちのクラブ員のご主人は家を空ける、これじゃ奥さまはバイクウイドウ。お子さんと一緒に不満を持つてる方も多いだろう。ならばいっそのことご家族全員で遊びに来ていただけるようなバイク運動会を開いたら」というわけで、家族参加のバイク運動会を開いて大好評を博したものです。

しかし問題なのは、このイベントが参加したみなさんに喜ばれたことではありません。それ以上に、奥さまやお子さまたちが、「お父さんが夢中になっているバイクの楽しさが判かるようだ」とおっしゃっていたこと。爽こうしてバイクやスクーターの楽しさ、爽



快さを身を持って体験した奥さまやお子さまたちが、時が来ればきわめて自然にバイクやスクーターに乗り始めることになるのです。

さあ85年。ことしこそ、狭い固定観念を捨て、視野を広げてお客さまのバイクの世界を拡大しようではありませんか！





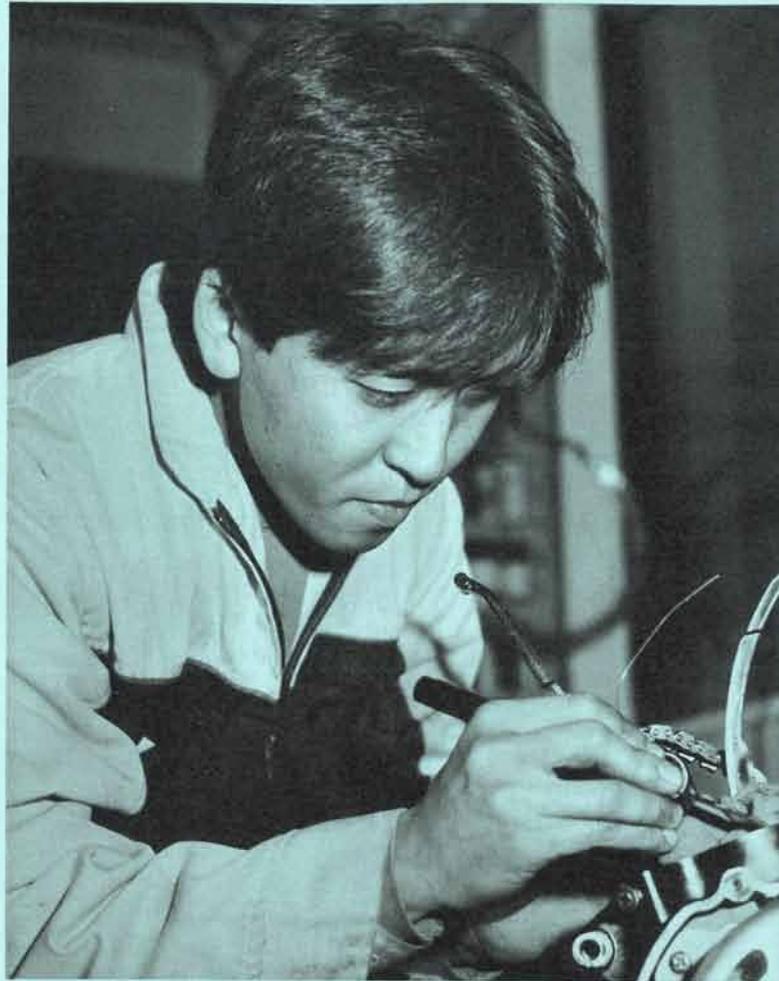
従業員さん登場

①

若いお客さまの仲間のような、
兄貴のような頼もしい存在として
セールスにサービスに、大活躍する従業員さん——今年は1
年間、全国からそんな従業員の
みなさんにご登場いただきます。

小野竜人さん(22才)

YSP調布(桑山周二店長)
サービス担当
(東京都調布市)



公私にわたっての良き
理解者でもある、YSP
調布のみなさんと

医者のような気持で、お客さまのバイクに接したい

子供の頃のメカ好きが昂じ、航空機のメカニックを目指して山梨県の航空機整備の専門学校に通っていた小野さんは、卒業後も理想の職場を決めかねるままに浪人をつづけていました。
そんな時に始めたアルバイトが、オートバイの整備。しかし、今ではオートバイのメカに夢中。もちろんアルバイトなどではなく、プロ中のプロを目指して奮闘中です。

●サービスマンができる一番のサービスは……

「昨年3月この店の開店と同時入社です。から、とても愛着があります。サービスマンとしてはまだまだ半人前といったところですが、この店と一緒に成長できればいいな、なんて思っています。」

同時入社他のスタッフも色いろと努力しているし、私も一台でも多くのバイクを手掛けて、整備の勉強を積み、もっとお客さまに信頼される「腕」の良いサービスマンになりたいですね」という小野さんの仕事上の信条は「医者のような気持になつてバイクを診ることか。」

「故障箇所を適切に判断するためには、乗

●社長さんから一言●
桑山周二店長



「真面目でソツなく几帳面、とても仕事好きな好青年です。将来はひとつ上の立場に立てる人間になつてほしい。次に人材を募るときも、今のメンバーのような人を望んでいます。」

「僕がどうなのか、ということもジツクリと聞かないとダメですね。お客さんは自分の判断でここが悪いから直してくれ、なんていうって持てきますけど、やはりそれは素人判断。会話の中に自分の培ってきた知識を入れて、適切な処置をほどこす。当り前のことも知れませんが、こんな部分が私たちサービスマンがお客さまにしてあげられる最大のサービスだと思っています。」

夢はレーサーの名チューナー

そんな努力が実つてか、今ではフロントを通さずに、直接小野さんに相談したり、修理依頼に来るお客さまも増え、着実に信頼の輪を広げていますが、それでもまだまだ苦手もあります。

「バイク好きって呼ばれるお客さまには、マニュアルの方が多くて、私よりバイクに詳しい人が修理依頼に来たときなんかは、いまだにドギマギしてしまいます(笑)。でも、そんな経験の一つひとつが良い勉強で、仕事をやるうえで自信となつて還元されているんですよ。」

★

将来の夢はレーシングマシンをチューンできるメカニックになること。仕事の合間を見ればレース場へも顔を出し、また自からもレースに参加するなどプロ中のプロを目指して勉強に余念のない小野さんです。

各界専門誌編集長が語る当世若者気質

Magazine & Magazine

Part. 1

skier



編集長
市川泰雄氏



『スキヤー』

〔発行所〕 嶽山と溪谷社。

〔創刊〕 1964年。毎年6月～12月まで7ヵ月間にわたって、月刊ペースで7号発行。加えて夏の間に臨時増刊を1号発行。発行部数は20万部。

〔読者層〕 独身の男女（高校生から25～26歳まで）が約9割。但し、その9割は男性読者。

〔編集方針〕 「遊びごころを大切にしたい」というポリシーのもと、より多くの人びとにスキーの楽しさをアピールしている。

〔編集内容〕 技術（滑り方セミナー）、用具（用具研究、ファッション）、ガイド（遊び方）、情報（ニュース）を4本柱に、発行タイミングに合わせて特集形式で編集。

〔編集長プロフィール〕 1968年4月に嶽山と溪谷社に入社。『山と溪谷』、『ハイカー』、『アルパインガイド』の編集部を経て、『スキヤー』編集部に移る。以来、11年間にわたり『スキヤー』の編集を担当。1978年から編集長に。1944年7月8日生まれ、0型。

スキーというのは非常に資本主義にマッチしているんです。

「一般大衆の中流意識を上手にくすぐったわけですね。」
「基本的にお客は贅沢な遊びを買うものです。だから資本主義にマッチしている。当然広告がたえばスキー用品がふえる。」

高級スキー板）はなんと10万円ですからね。給料の4倍ですから、お金持ちでなきゃ楽しめない遊びだったんです。」
「その始まり方はバイクと似ていますね。バイクも最初はお金持ちしか乗れなかった。ところで、それが大衆化というか、言葉を変えれば本が売れ出したキッカケというのは。本でいえば、表紙を小林泰彦さんのイラストにしたことでしょうか。それまでのスキー雑誌というのは一流レーサーの走りとか、非常に先鋭的なものを売れ線に乗せていたんです。もちろん内容もね。」

「ご存知のように小林泰彦さんのイラストというのは、非常にソフトな遊び心を刺激してくれるでしょう。内容もそれに合わせて、遊び心とかファッションとかアフタースキーとか、ソフトのバリエーションをふやしたんです。そうしたら売れ出した。」（笑）

「カッコいい男やふえれば、女だつて必ずして行くものぞいぬ」

スキーとバイクという業態は、よく似ているのだそうです。そればかりか、「スキー市場はバイク市場の5年先を歩んでいる」のだそうです。スキー・スポーツ専門誌の草分けともいえる『スキヤー』を、もう10年も手がけている

編集長の市川氏は、同時にバイク大好き人間のひとり。今回は、そんな市川編集長にスキーとバイクをテーマに、非常に営業センスあふれた資本主義的なお話をたくさんうかがいました。

「聞くところによりますと、この『スキヤー』という雑誌は広告収入が非常に多いということですが。」

「そうですね。1号あたりの広告収入は約1億2千万円ほどですネ。バイク専門誌のそれは、多いところで6千万円ぐらいでしょう。」

「市場的に考えれば、スキーはバイクの約2倍といえます。」

「編集長になられたのが7年前ですネ。最初からそんなに高収入だったんですか。」
「いえいえ、とんでもありません。10年前は約半分でした。ちょうどその頃からスキーの

大衆化というか、スキー人口がどんどん増えてきたんです。」

「スキーは最初はお金持ちの遊びだったんですよ。まず道具がある。そしてスキー場まで行く旅費、宿泊費が必要でしょう。ホクが初任給2万5千円の時、ヘッド360（当時の



注1/空気は通すが水は通さない科学繊維。
 注2/NASAで開発された軽くて保温力のある科学繊維。
 注3/イタリアン・カジュアルの略

注4/イラストレーターの渡辺和博が作り出したことば。
 ◎に対して◎があり、一億総中流意識を痛烈に皮肉った「金塊巻」という本からはやり始めた。



女性層は無視する。しかし考慮はするというのが方針です。

市場の広がった原因のひとつに女性の参加というのが考えられると思いますが。

それからもうひとつ、日常生活以下のもの、たとえばタクアンかじってニギリ飯を食べてスキーするなんていうのもダメです。贅沢に遊びたいわけですから、日常の生活以上のものを遊びにしないといけません」

多くなつて雑誌はもうかります。そして雑誌が情報を出すと、次はスキー場がもうかる。さらにペンションももうかれれば、交通機関やトランスポート、ドライブインももうかる。もうかるから大企業が乗り出す。するといふホテルができる。そして広告がふえる。アフタースキーで楽しさが広がる。一番損をするのはお客です。これはわかっています。しかし、お客はお金を払っていい。つまり贅沢な遊びを買うわけです。本が売れたのも市場が広がったのも、実はスキーが資本主義に合った構造の上で発展してきたからなんです。だから、その合っているところを外したらダメですよ。

定価2万円の売れ残ったスキー板にいきなり7万円の値段をつけたらバカ売れ。

ところで、この10年の市場の広がりがたの中で、興味深いことはありませんか。

余談になりますが、この10年の間にスキーの雑誌でも女性スキーヤーを対象にしたものがたくさん出版されたんですが、いずれもなくなつちやうです。やはりスキーは遊びですから、こと遊びの世界に関してはまだまだ男性主導型ということが言えるでしょう」

スキー場というのは、実は競争のスゴく激しい場所なんです。ファッションもカッコよくしなないといけないし、技術もスルドクなければダメ。そうじゃないとスキー場では他の男に彼女をとられかねない(笑)。だから男はガンバルわけです。

「女性の層は確かにふえました。今や50%は女性です。しかし、ウチのやり方は、とりあえず女性は無視するという方針です。というのは、まず第一に女性は本を買いませんから。女性が用具を買うにしろ、スキー場を捜すにしろ、その後には必ず男がいるんです。ですから、女性に直接アピールするのはなく、男性に「キミの彼女をドレスアッププ」的な記事を訴えているわけです。それに女性は、なによりもカッコいい男を求めているんです。カッコいい男がいれば必ず女性はいってくる。だから、カッコいい男が読んでいる本なんだ」というアピールだけで充分なんです。

「そうですネ、ひとつは世の中の流行とマッチングした面があると思います。スキー用具(ファッション)は最初、皮グツにスキー板だけだった。それが第1次ブームではハレンチとかいうか、やたら派手なもの、真っ赤なツナギとかレーサーまがいのファッションが流行しました。まあ、チンドン屋ですネ、恥しくて町も歩けない。そして次がヘビータグエーティブーム。例のダウンジャケットがそれで、これは機能性を追求した。このヘビータグエーティブームは街着としても流行し、「ポパイ(雑誌)なんかでもさかんに特集を組みました。つまり、スキーウェアが街着になった。この辺から市場は大きく発展して来てるんです。

「それはやはり雑誌です。ウチの本が作り出す(笑)。というのは、スキーは遊びでしょう。しかも実に資本主義的なネ。だから、お客は消費に走る。何を着ればカッコいいか、何をすれば目立つか、雑誌はそのヒントを与えます」

「それはやはり雑誌です。ウチの本が作り出す(笑)。というのは、スキーは遊びでしょう。しかも実に資本主義的なネ。だから、お客は消費に走る。何を着ればカッコいいか、何をすれば目立つか、雑誌はそのヒントを与えます」

「それはやはり雑誌です。ウチの本が作り出す(笑)。というのは、スキーは遊びでしょう。しかも実に資本主義的なネ。だから、お客は消費に走る。何を着ればカッコいいか、何をすれば目立つか、雑誌はそのヒントを与えます」

「それはやはり雑誌です。ウチの本が作り出す(笑)。というのは、スキーは遊びでしょう。しかも実に資本主義的なネ。だから、お客は消費に走る。何を着ればカッコいいか、何をすれば目立つか、雑誌はそのヒントを与えます」

「それはやはり雑誌です。ウチの本が作り出す(笑)。というのは、スキーは遊びでしょう。しかも実に資本主義的なネ。だから、お客は消費に走る。何を着ればカッコいいか、何をすれば目立つか、雑誌はそのヒントを与えます」



情報スクランブル

●忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●無限大のSRワールドを再現

THE SR
各二輪専門誌から趣向をこらした臨時増刊が発行されているが、ビッグシングル・SRだけにスポットを当て、美しいカラーグラフ、豊富な周辺用品、SR開発ストーリーまでを紹介してみごとにSRワールドを再現したマニア必読の一冊。
サイクルワールド1月号増刊 CBSソニー出版 ¥1800



●知っているようで知らないから

バイク用語ハンドブック
バイクの種類からメカニックに関する用語、ライディング用語、機構名まで、各分野で常識と思われる用語はすべて網羅。ヤマハ最新技術の5バルブの解説もついていて、あれば必ず役に立つ本。
佐々木和夫著 グランプリ出版/¥950



DISK

●理屈抜きのノリの良さ

UB40/ジェフリーモーガン
人間の身体が刻むリズムと同じ、ツビーを基調とした音楽。レゲエ。は聞いていて安心できる。ジャマイカの黒人ではなく、英国人グループのUB40がシンセサイザーを駆使したニューアルバムということで、話題性も十分。走り疲れたライダーを和ませるには、最高のBGM。
東芝EMI/¥2500



TOOL

●ピン・ストライプがカンタンに引ける

ペイント・ストライピングツール
マジックインキを使う要領でバイクのタンクやサイドカバーに、手軽にピン・ストライプ(細い線)を引くことができる便利モノ。問い合わせ ミスタージョーク ☎0724(7) 1592/¥2800



GOODS

●手元も足元も明るい方がいい

「バスキーライト」

バイク、クルマ、部屋……どこでも夜間に



キーホールを捜すわずらわしさを解消するライト付キーケース。従来のものと比べ小型で、キーの操作性も良く、ほとんどのキーヘッドに取り付け可能。電池交換も簡単で、スイッチはパステルカラーの6色。
問い合わせ・株極東 ☎03(484)3179 ¥1500

VIDEO

●茶の間で学べるベストテクニク

ジャングルキヤット・オブ・トライアル
弱冠17才でトライアル世界選手権に挑戦する天才ライダー、トニー・スカレットの妙技が収められたニュービデオ。
問い合わせ・カトウライダーズサロン 078(947)1734 VHS・ベータ/30分 ¥13000



EVENT

●シングル&ツインを駆るアマチュアのためのレース

第3回バトルオブツイン・フェスティバル
4サイクル・ツインエンジンのマシンをメインに、4サイクル・シングルおよび4サイクル・ツインの旧車など、一味違ったマシンによるレースが見もの。開催日は昨年同様1月15日(祝)、場所は筑波サーキットで。
問い合わせ バトルオブツイン・フェスティバル事務局 ☎03(451)9505

●世界のテクニシャンが集合

「インターナショナル・スタジアムトライアル」
トライアル世界GPで活躍する世界のトップライダーが一堂に会す。昨年この大会で、TYを駆った工藤靖幸選手の活躍はまだ記憶に新しい。
場所/多摩テック11月13日(日)・15日(祝) 鈴鹿サーキット11月20日(日)

●バイクの原点から'85ニューモデルまで一堂に展示

「85サ・モーターサイクルショー」
毎年その規模を拡大しながら、今回で14回目を迎える。展示は内外の新車、カスタムバイク、クラシック、特殊車など400台。用品の即売コーナーやバイク相談室、ビデオコーナーまで設置された大掛りなもので、今年は今場所を東京流通センターにうつしての開催となる。
会期・3月21日から24日(AM9時からPM5時まで)/入場料 大人¥1000 中学生 ¥800 小学生 ¥200

●冬には冬のモータースポーツを

MFJ公認スノーモビル・スポーツスクール
スノーモビルのテクニクを専門のインストラクターが指導するユニークなスクールが登場した。受講者は全員MFJ発行の限定競技ライセンスも同時取得できる。
日時・3月末日まで常時受付、場所・塩沢パラダイスホテル(新潟県南魚沼郡塩沢町) 料金・一般¥5000 パラダイスホテル宿泊者¥4000 問い合わせ・塩沢パラダイスホテル ☎0257(83)2591 ※東京からのパックもあります。㈱アイトラベルセンター ☎03(262)7711

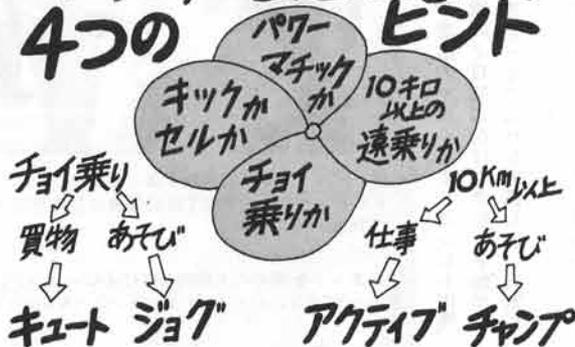


●自店製チャーターでお客様さまにピッタリのスクーター選び

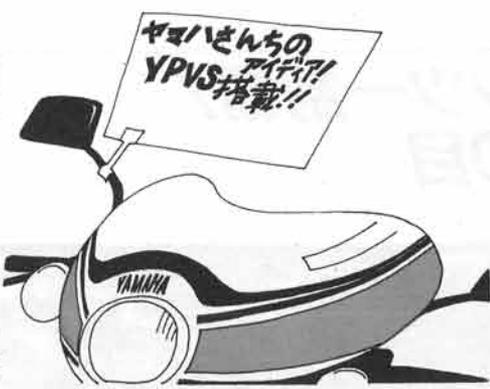
キュート、ニュー・ジョグ、チャンプ、アクティブ……バリエーション豊富なスクーター群ですが、初めてスクーターを購入しようとするお客様、スクーターに対する知識の乏しいお客様にとっては、この豊富なバリエーションが迷いの原因。

そこで岩手県盛岡市のK店さんでは、スクーター早見表のパネルを作成し、お客様に喜ばれています。これは、購入客のスクーターの使い方と各スクーターの特徴を関連づけて解かりやすく説明したもので、キック始動とセル始動の違いを解き、力の弱い女性にはセル付がベストなどといった選択基準が示されています。また、用途の面でも「ちよこ乗りか? 10km以上走るか?」などの質問から、そのお客様にぴったりのスクーターが選べるというものです。もちろん用途、体力からおサイフの中身まで、お客様の立場になった選択基準が喜ばれている最大の理由。

スクーターを選ぶための4つのヒント



●プライスカードにセールスポイント



●お客様さまコーナーにヘルメット掛け

お客様さまコーナーでは、ストローブを囲んで夜のバイク談義に花が咲く季節ですね。こん

シヨールームの展示車には、1台1台しっかりとプライスカードがついていますか? このプライスカード、どうしても定価〇万〇千円とか〇万〇千円特別価格、といった価格表示だけで終わってしまいがちですが、神奈川県川崎市のM店さんでは、これにひと工夫してお客様に喜ばれています。つまり、車名と価格に、従業員さんたちが考えたセールスポイントをひと言つけ加えたのです。RZ250Rの上には「ヤマハさんのアイデア! YPVS搭載!!」下から上までよく回ります」といった具合。実際に乗る人の体験から出た身近かな言葉が、暖かみを生み、お客様を納得させているのです。

な時、置き場所に困るのがお客様さまのヘルメットやグローブなど。



●店頭を開放して「ボロ市」

東京世田谷のA店さんでは、シーズンオフを迎え、客足が遠のいてしまったことから、まずは来店者を増やそうと常連のお客様さまや近所の人たちに呼びかけて「ボロ市」を開きました。

お客様からは、使い古しのウェアや愛車の不要となった部品・用品を、またご近所の方には古着などを持ち寄ってもらい、適当な

●お客様さまカードの項目見直し

どこまでデータを収録できるか、でお客様さまカードの活用もずいぶん違ってきます。神奈川県茅ヶ崎市のM店さんでは、このカードをきわめて綿密なものとしてお店の評判を呼んでいます。

つまり、同店のカードには一般的な記載項目の他に購入時のサービス品、購入方法、購入車の特徴、お客様の家族構成、ご家族の生年月日……とおよそ活用できそうな情報はすべて盛り込まれています。

これにより代替のおすすすめはもちろん、免許年令に達したお子さんへのアプローチ、誕生日を迎えたご家族のおめでとうDMなどとタイミングの良いDMがつきつきと届いて、「サービスの良いお店」の評判を高めているのです。



●マレーシア・セラゴールGP

ローソン、平でワンツー制覇! 平の速さに驚異の目

世界GPや全日本そしてアメリカAMAなど、世界の主要シリーズ戦がオフシーズンに入った12月に、世界のトップライダーを集めて行なわれるところから人気の高いマレーシア・セラゴールGPが、昨年12月1日、2日の両日、クアラルンプール郊外のサハ・アラムトラックで行なわれた。

このレースには、'84世界チャンピオンに輝くエディ・ローソンと2年連続全日本チャン



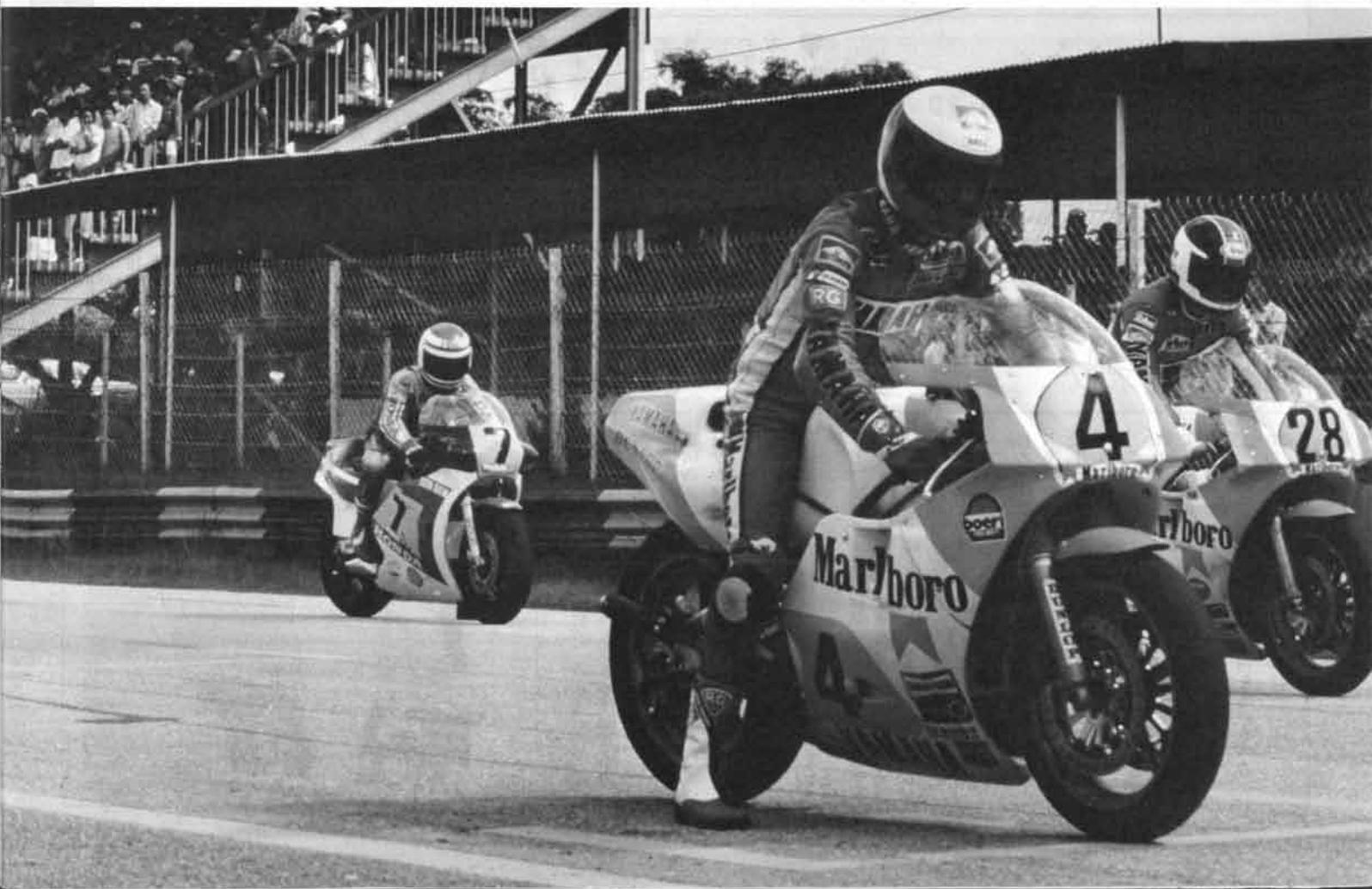
第1ヒートこそ平に勝利を譲ったものの、ワールドチャンピオンの貫禄で総合優勝したローソンとYZR500



↓スタンドを埋めた大観衆を前に④ローソン、②8平……YZRコンビのリードでセラゴールGPのスタート

ピオンの平忠彦のヤマハYZRコンビも出場。土曜、日曜の2日間にかけて2ヒート制で行なわれた元気一杯の走りを披露して、人気を独占した。

特に平は、予選から好調で、余裕のポールポジション。土曜日の第1ヒートでも世界チャンプ・ローソンを2秒近く離して優勝を飾れば、日曜日の第2ヒートでも一分21秒8という驚異的な最高ラップをマーク。コンマ



お得意のスタイルで、日本でのレース4
回目の優勝を飾ったリック・ジョンソン



●'84KBS京都ジャパン・スーパーモトクロス
リック・ジョンソン+YZ250
余裕で日本4回目の勝利!

リック+YZ250、最高のコンビ
ネーションでライバルを圧倒



秒差の一分21秒9をマークしたローソンにヒート優勝、総合優勝こそ譲ったものの、その「速さ」でワールドチャンプをしのぐ人気をさらってしまった。

ちなみに、これまでの最高タイムは、'81年マレーシアGP(コースは同じ)で故高井幾次郎選手がYZR500でマークした一分24秒1。また予選タイムでは金谷秀夫選手の一分

23秒1(YZR750)があるが、これと比べても急速なタイムアップぶりに驚かされる。なお、1位ローソン、2位平につづく3位には、同じく日本から遠征の木下恵司(ホンダNSR500)が入った。また、この日行なわれたモーターサイクル部門のすべてにヤマハライダーが優勝。つめかけた大観衆に、圧倒的なヤマハパワーをみせつけていた。

晩秋の恒例イベントとしてすっかり定着した感のあるスタジアム・モトクロス、スーパークロスが、昨年11月18日に大阪南港の埋め立地・南埠頭特設会場で開催された。

市販モトクロスサーYZ250を駆って'84年のAMAナショナル250ccチャンピオンに輝いたリック・ジョンソンを筆頭に、12名のアメリカンライダーが出場したこの、'84KBS京都ジャパン・スーパーモトクロスは、'82年に東京・後楽園球場で行なわれたのが最初のスーパークロス以来の豪華メンバー。

それだけに、一万2千人の大観衆がつかめてハードコースに乱舞するマシンとライダー

のデッドヒートに歓声を上げていた。こうした中で予選ヒートを勝ち抜いた20名のライダーで争われた決勝ヒートでは、アメリカンライダーが上位を独占。中でもAMAチャンプ、リック・ジョンソンとYZ250は中盤から他を圧倒してトップを快走。10月の日本GPにつづいて、みごと総合優勝を飾った。

それにしても、このリック・ジョンソンとヤマハYZ250の日本での強さは驚異的。'82年の後楽園以来、出場6レース、8ヒートのうち4レース、5ヒートの優勝をさらっているというスゴサ。リック人気は、いまや日本のチビッ子にまで広がっている。



構です。お気軽にお寄せください。〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝課「ヤマハニュース」係 ☎05383(2)1111 内線2356)

'85商戦への意欲も新たに ヤマハ関西選抜店懇親会ひらく



'85年の飛躍を誓って、意気あがる、参加店のみなさん



船内では優秀販売店さんの表彰も行なわれ、森永国彦・ヤマハ発動機取締役・モーターサイクル事業部長より表彰盾が贈られた

〔ヤマハ関西株〕12月8日、9日の両日、ヤマハ関西株では、管内の販売店・300店、500名さまをお招きして、「クリスマス・オン・ニュー・ゆうとびあ」を開催しました。

これは、昨年1年間のご商売の労をねぎらい、'85商戦に意欲も新たに組んでいたかどうかと開いたもの。1泊2日、瀬戸内海を巡る豪華な船旅を満喫しながら、集まった販売店のみなさまは、新しい年のご商売に決意を新たにされていました。

3部門でナンバーワンに! 読者が選ぶ "マシン・オブ・ザ・イヤー"



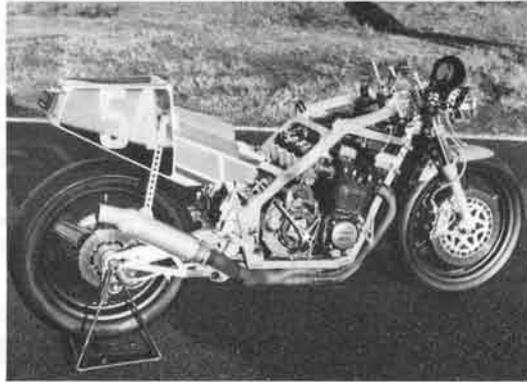
読者からの人気投票で「マシン・オブ・ザ・イヤー」を選出する月刊「ヤングマシン」誌の恒例企画も、'84年度で早や12回目。今回は、アメリカン部門、オフロード部門、スクーター部門の3部門でヤマハが人気を独占。XV750ピラーゴ、DT200R、そしてジョグが、それぞれナンバーワンに輝きました。

写真は、表彰トロフィーを手に喜びの各モデル開発プロジェクト・リーダーたち。左からジョグ担当・木下主任、XV750ピラーゴ担当・荒木技師そしてDT200Rの島田技師。

平選手ハントはトヨタCMに!



人気ナンバーワンライター平忠彦選手が、テレビCMに登場して話題を呼んでいます。しかも、商品が「男性化粧品」(資生堂・テック21)というところが、いかにも2枚目・平選手らしいところ。このCMは、筑波サーキットで撮影されたのですが、チャンピオン平選手のような



専門誌テストライダー "XJ750R"を試乗



昨年のスズカ8時間耐久レースで5位入賞と、並いる耐久マシンを向うに大活躍をみせたXJ750Rの姿はまだ記憶に新しいところ。いま話題のFZ750の開発にも少なからぬ役割を果たしたこのXJ750Rのポテンシャルとヤマハのマシンのづくりの姿勢を、専門誌テストライダー諸氏に実体験していただく。12月には、ヤマハコースに国内専門誌のテストライダーを招いて試乗会が行なわれました。

この日、話題を呼んでいたのは、トータルパフォーマンスにすぐれた、ヤマハらしい操安性の良さ……この日の模様は、1月発売の各誌の誌面を飾っています。



庄司覚選手、 ゴールイン

一昨年の国際A級125cc級チャンピオン・存知ヤマハモトクロスチームの庄司覚選手が、昨年11月にめでたくゴールインしました。

新婦は、中学時代の同級生・公子さん（旧姓佐藤）高校卒業直後からの交際を、しっかりと実らせたものですが、新生活へのスタートを機に、今シーズンの庄司選手の活躍が大いに期待されるどころです。

オフライもマルチメニュー時代



活躍もあって、今年のロードレース人気は、ますますエスカレートしそうですね。

TY250スコティッシュやYZの乗り方教室から三輪YTの乗り方指導、そしてこれらさまざまなバイクを使ったオフロードの遊び……とユニークな内容で充実したオフロードライディングスクールを開催、お客さまの人気を集めたのはYSP京葉・南大月ヤマハスポーツショップ（大月信和社長）さん。

11月25日、会場の山梨県・道志の森トライアル場には、家族づれのお客さまも含め20名以上の人びとが参集。パラエティに富んだオフロードの遊びを楽しんでいました。

SALES



この冬場にも顧客管理台帳の再点検を。

新年を迎え、決意も新たに'85商戦へ意欲を燃やされていることと思います。そこで、'85商戦のスタート前の準備について、ひとこと触れさせていただきます。

高度成長期を終えて安定成長期に突入したバイク業界は、例えていうならトロール漁法から一本釣り漁法への転換を迫られているといえます。

街角にはオートバイがあふれ、保有台数も過去に比べて雲泥の差となっています。その結果、ご商売の主体も新規開拓から代替促進へと変化しつつあるわけです。

こういった市場で、いったい何がお店にとって必要なかという点、いかに自店の商圏内のデータを把握しているかです。マーケティング戦略の中でデータなしでは、羅針盤なくして太平洋を航海するのと同じことなのです。

データとは、すなわち顧客管理台帳。したがって'85商戦での成功の「鍵」も、この顧客管理台帳の分類・整理の仕方とその有効な活用方法にあるといえそうです。

イベントやセールスの告知DMはもとより、訪問販売のリストアップやアフターフォローになくてはならない顧客管理台帳は、いつてみればお店の第1の宝です。その宝を持ちぐされにさせないように、この冬場に再点検し

て、来たる春の商戦に向けて対応できるようにしましょう。

ヤマハではこうしたご商売に必要なデータの数がずを管理し、有効に生かすコンピュータシステムVOCIS（ボックス）の導入を推進しております。皆さまのお店でもVOCISを導入し、さらにご商売の合理化・省力化をお図りください。

SERVICE



キズや油汚れ防止に「愛情カバー・セット」をご活用ください。

「愛情カバー・セット」をご存知ですか？点検・整備中に思わぬことでタンク等にキズをつけてしまう場合がありますが、とくにタンク部分はキズがつきやすく、最も目立つ場所。もしキズがついたら、お客さまの信用を損う結果にもなりかねません。

こうしたタンクのキズを防止するために、「タンクカバー」を、また油で汚れやすいグリッブ部を汚れから守る「グリッブカバー」を用意しました。

〈タンクカバー〉

PR

『The Creative Challenge』

お手元におそろえください。



1955年にヤマハ第一号車「125 YAMAHA」を開発してから早や30年、ヤマハはつねに新しい技術へのチャレンジを続けてきましたが、その年月の中でそれぞれの時代を代表するヤマハの技術を詳細に収録した小冊子が完成しました。

その名も、「The Creative Challenge」創造への挑戦。ヤマハのモーターサイクル技術のサブタイトルどおり、この小冊子にはYAMAHAから始まって、ロータリーディスクバルブ、オートバルブ、7ポート・トルクインダクション、モノクロスサスペンション、YPVS、2サイクルV型4気筒エンジン、までの技術が網羅。さらに巻頭では、いま話題のDOHC・5バルブシステムもカラー図解入りで解説、英語も併記されて内容充実の228ページです。皆さまのお店でも、お手元の資料としてのご活用はもちろんのこと、お客さまへのヤマハ技術のPR用として、ぜひおそろえください。頒布価格は1200円です。

『TY250R、スタジアムを走る』と題したこのビデオは、昨年、福岡と大阪で行なわれたスーパースタジアムトライアル大会で、TY250Rに乗るヤマハの伊藤敦志、中川義博、坂口澄男の活躍をドキュメントタッチで追ったもの。さらに、伊藤選手の解説も加えスローヤストップモーションを利用して、セクシオンでの微妙な動きを手にとるように理解できるよう編集されています。

TY250Rのポテンシャルの高さをアピールするPRビデオとしての活用はもちろん、ノービス、ジュニア・クラスのトライアル・ファンへの練習用ビデオとしても十分活用可能

『TY250R、スタジアムを走る』 トライアル普及の一助にVTRをどうぞ。

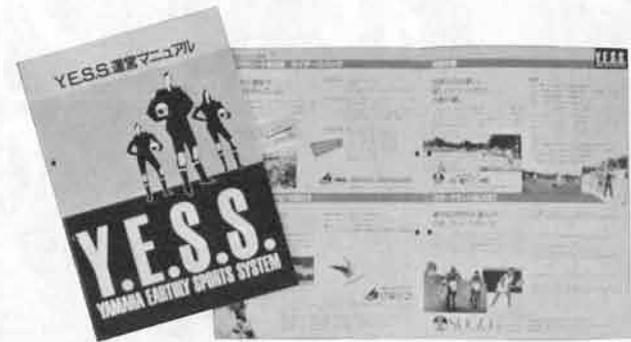
TY250Rの発売以来、ますます盛りあがるわが国のトライアルですが、その普及用ツールとして新たにビデオ・ソフトを製作しました。

●お知らせ 『YESS運営マニュアル』完成！

です。皆さまのお店でも1本おそろえください。申込み切りは1月末日です。

YESSのシステム説明からスタッフ集めのノウハウ、さらに各種特典のリストをもちこんだ『YESS運営マニュアル』が完成しました。YESS加盟の販売店さまにおきましては、先にご紹介しました『YESSモータースポーツマニュアル』と合わせてご利用いただき、さらに大きな『YESSの輪』をおつくりください。

なお、YESSに関するお問合せは、最寄りのヤマハ販売会社のSLマンまでどうぞ。



高品質・高性能で定評のヤマハ・ヘルメットはもちろん耐久性抜群のFRP製です。

お客さまの安全のためにも 良いヘルメットのおすすすめを。

ヘルメットの使用有効期限って、ご存知ですか？ 通説では製造後2年といわれていますが、あまり長期間にわたっての使用はお勧めできません。

とはいえ、すべてが2〜3年で限度がくるのかというと、そうとも言いきれません。たとえば、FRP製（熱硬化性樹脂）のヘルメットの場合は、労働省産業安定研究所の自然暴露劣化度合結果を見ても、「暴露による影響はきわめて少ない」とお墨付きをいただいているからです。

ところが、ポリエチレン（熱可塑性樹脂）ヘルメットだと通説だと製造後6ヶ月、またABS製ヘルメットでも7・5ヶ月で影響を受けるとされています。さらにポリカーボネ



油汚れが目立ちにくい紺色で、タンク部分でとくにキズのつきやすい前部をもカバーできるデザインです。素材は綿布地を使用。耐熱性にすぐれ、エンジン部分からの熱にもOKです。カバー裏面にはソフトな綿布地に強力磁石を埋めこんでありますので、脱着も簡単です。

実際のところ、ヘルメットの耐用期限を定めることは、使用する環境や使用頻度、扱い方等によって異なりますので、いちがいに前述のデータだけで決めつけるわけにはいきませんが、それでもFRP製ヘルメットに関しては丁寧に扱えば7〜8年の長期にわたって使用することができます。

ヘルメットはバイクに乗るお客さまの命ひとつの命。お客さまにも、ぜひとも以上のことを説明した上で安全なヘルメットをおすすめするとともに、十分にその扱い方をご理解いただくようお取りはからいください。

（グリップカバー）
表面はPVC（塩ビレザー）を使用していますから、水に強く、油汚れなどは簡単にふき取ったり、洗い落とすことができます。

■適応車種 / 250cc〜750cc
■価格 / 2500円（タンクカバー×1、グリップカバー×2で1セット）

（ヤマハ技術講習会）2月開催予定の研修センター神戸の2〜2気筒コース（20〜22日）と2〜2気筒コース（26〜28日）が中止となりました。よって2月度は、研修センター神戸の4〜DOHCコース（5〜7日）と研修センター東京の2〜単気筒コース（6〜8日）となります。

おすすめください！

『BIKE RIDER'S DIARY』

モーターサイクルファンに人気の『55mph』の特別版・『バイク・ライダーズ・ダイアリー／1985』が完成しました。

A4版の大型サイズが売りもののこのダイアリーには、1日ごとのスケジュール・メモ欄のほか、住所録、ツーリング・ノート、モータースポーツ施設ガイドなども加えられ、バイクユーザーが使いやすい内容となっています。皆さまのお店のお客さまにも、ぜひおすすめください。



チーム・ギヤロップ

有オートギャロップ・小山隆司社長 東京都八王子市北野町5300-121

今月お訪ねした「チーム・ギヤロップ」さんは、林道ツーリングを主体に活動しているクラブ。クラブとはいえ、バイク好き集まれ、みんなて遊ぼう、という、きわめてオープンな、自由な気分のクラブです。

バイク大好き人間集まれ 一緒に林道を楽しもう！



●女性従業員さんの提案で発足

「チーム・ギヤロップ」は、一昨年の7月に結成された若いクラブ。本拠となっている有オートギャロップさんが、現在の場所に新装移転したのを機に、ご自身も林道ツーリング大好き人間という女性従業員の松浦幸代さんが、お客さまに呼びかけてクラブとしての形を整えたのです。

クラブの形を整えた……そうです、それぞれ1人、2人とバラバラに楽しんでいたお客さまたちも、「一緒に楽しみませんか」と呼びかけただけ。クラブの会則を定めたり、入会金を集めたり、会費を徴収したり、定期的にミーティングを開いたり、定例行事としてツーリングに出かけたり……という、いわゆる普通のクラブのような取り決めの一切ない、きわめて自由な「クラブ」なのです。

しばらく走っていないから、またそろそろみんなて林道に行きたいね。クラブ員の誰からともなくこんな声が上がると、世話役の松浦幸代さんがメンバーに電話連絡。目的地と日時を決めて、行きたい人が行く、というわけです。

●平均10名で林道へ

こうしていま「チーム・ギヤロップ」のメンバーとして林道ツーリングを楽しんでいるお客さまは約20名。年令も16才の高校生から50代の男性まで幅広く、中には男性顔負けというほどハードに林道を攻める3名の女性会員も含まれています。1回のツーリングに参加するのは平均10名。お店近くの高尾山周辺から、ちよつと足を伸ばした富士山麓の林道がクラブのホームグラウンドです。

ルールなしのクラブだからツーリングに出かけてもバラバラ……なんてことは決してないのも「チーム・ギヤロップ」の自慢。クラブとして揃って出かけるよえになるずっと前から、それぞれに林道ツーリングを楽しんでいた人たちがかりです。1人1人がツーリングのマナー、ライディングのテクニク、バイクの知識などのすべてに通じ、責任と自覚を持って参加しているからです。お辞儀ぬきで大人のクラブ、そんなカンジのみなさんです。



お揃いのユニフォームで、オートギャロップのみなさん。左から3人目が小山社長、お隣りがチーム・ギャロップのゴッド姉さん・松浦幸代さん



●お店はクラブを遠くから「見守る」だけ

「これは、クラブのみなさんのこんな活動に対してお店はどうかかわっているのでしょうか。店内に立入らないで、遠くから見守っている」というのが小山社長の方針です。

「私や他の従業員がクラブのことに細かく口出しすることはまずありません。バイク好きの人たちが集まって、一緒に楽しみ、クラブを盛り上げていくところにチーム・ギャロップの良さがあるんですから。だから、私が一緒に林道ツーリングに行くとしても、それはメンバーの一人として、連れていってもらおうというわけですね」

「クラブの活動を商売に、なんて考えてもいない。そうなれば折角のクラブも堅苦しくつまらないものになってしまうから……」という小山社長。

「つまりお店としてもお客さまに『自由に楽しんでいただくことを一番大切にしているのです。』

●他店のお客さまも、もちろん歓迎

そのことは、来る者は拒まず、去る者は追わず」という姿勢にも表われています。よそのお店のお客さまだろと一緒遊びたい人なら、とんどん面倒みちやう、というわけ。バイク好き集れ、みんなで楽しもう。そんなお店のカラーが、そのままクラブのカラーともなっていて、楽しそうだから、といういろいろな人が集まってくる。こうして、結果として有形無形、しつにさまざまな形で「商売のプラス」になってしまっている。

●ロードへ、トライアルへと広がる輪

林道一辺倒の活動も、しだいにバリエーションを広げてきました。オンロードとオフロードの2グループに分かれ、別々のルートで同じ目的地にツーリングに行く、なんてアイデアも最近ではメンバーの間からもち上がっています。

またお店から500メートルの所に、約500坪の自店トライアル場もオープンしました。自由にのびのびと、チームギャロップの活動は、今年も着実に広がって行きそうです。

＊ ＊ ＊ 訪 問 ＊ ＊ ＊
 ＊ ＊ ＊ お 店 ＊ ＊ ＊
 ＊ ＊ ＊ こ ん に ち ＊ ＊ ＊

新店舗でフライト満々！ '85年は新規開拓にチャレンジです

■中村自転車モーター商会／三浦孝久社長

愛知県豊川市白鳥町桜町27-7
 ☎05383(6)0388

お店訪問・こんにちはヤマハです——今年からこのコーナーでは、昨今のむづかしい商環境の中でも積極的な活動を展開し、着実に業績を伸ばしている販売店の姿をご紹介します。

第1回は、愛知県豊川市の「中村自転車モーター商会」さん。店名どおり自転車との併売でスクーター、ビジネスを主体としたご商売ですが、昨年10月末の店舗新装移転以来、三浦社長は「スポーツユーザー獲得」に意欲的です。



「メイトの調子はいかがですか……」業務需要のお客さまも大切なお得意さん。豊川信用金庫さんと、左が三浦社長



サービスコーナーは、ショールームとは完全に分離されている

店舗移転でも活きた、地道な活動の積重ね

お稲荷様で知られる愛知県豊川市とお隣りの宝飯郡小坂井町を商圏に、この道35年のご商売をつづけてきた「中村自転車モーター商会」さんは、昨年10月、現在の桜町に移転しました。新店舗は、国道一号线と県道・豊川—小坂井線が交わる交差点に面した理想的な立地。それだけに、新店舗にも新しいお客さまがスムーズに来店されています。

しかしそれは、好立地のためだけではなく、8台ですが、台数よりも続けることに意義がある。店名と私たちの顔を覚えていただくためにも、そう思いつづけています」と三浦社長がおっしゃる、小坂井町のスーパー、小

坂井プラザ」での定地定例の展示会の成果と見るのが妥当のようです。

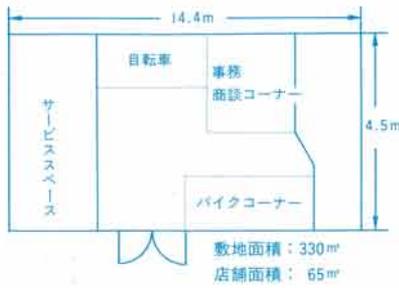
「町いちばんのスーパー」で店の知名度をより高めようと、4年前から2カ月に1回の割合で、この展示会をつづけています。いまは、うちにとって欠かせない活動ですね。展示車も、スクーターからビッグバイクまで色とりどり。

そして、この展示会で購入してくださったお客さまには、ちょっとした特典を与えているんですよ。それは、会場の「小坂井プラザ」の商品券・2500円分なんです。

お客さま自身に「徳した」と思っていただけではありません。会場を提供してくださっているスーパーさんとも良い関係がつかれますし、どちらとも長いおつきあいのうえで、とても有効ですね。実際この特典は、展示会



忙しくとびまわる三浦社長を支えてお店を守る奥さま・加依子さん。「スクーターの商品知識を身につけて、接客が上手になりたいですね」



お店の前は国道一号線と県道の交差点。カラフルなスクーターが道行く人の目をひきつける

自然光がふんだんに注ぎ込む明るい店内。新装オープンとともにスポーツバイクの若者も増えている

の開催月の始めから、展示会の一週間後までに成約いただいた方を対象にしています」

展示会とならば活動の柱・保守業務

さて、この展示会とならば「中村自転車モーター商会」さんの、もうひとつの活動は、業務用メイトの保守活動。地元の豊川信用金庫さんには、20の支店と2つの出張所がありますが、うち15支店で使用している76台のメイトの保守が「中村自転車モーター商会」さんの受け持ちとなっているのです。

「うちの総販売台数の3割を占めるのが豊川信用金庫さんですからね、大切なお得意さんです。お仕事柄、年に9000キロ以上も走られますので、出張点検にとくに力を入れています。定期点検は3カ月に1回。もちろん、みなさんがお出かけ前の早朝、工具持参で営業所におじやましています。

12支店ともなると、けっして楽な仕事ではありませんけど、店の技術力をアピールし信頼度を高めるためにもよい機会ですからね」

新規開拓へもち密な作戦

こうして、定地定例のスーパー展示会と業務用メイトの保守活動で着実にご商売を拡大する三浦社長が、新装移転した85年のテーマとして掲げているのが、新規開拓、とりわけスポーツユーザーの獲得です。

「今までの活動をきちんと続けながら、今年には新規の掘り起こしにチャレンジするつもりなんです。商圏のうち、小坂井町の方は展示会などでお客さまもだいぶ固定化できてきましたから、新規開拓の対象は豊川市ですね。ちょうど年末（取材に伺ったのは12月上旬）です。クリスマス・プレゼントのプレミアム付チラシを投げ込んで、お客さまを誘店。そして来店客の中から有力見込客をセレクトして電話でアフターフォロー、さらに戸別訪問で実販に結びつけるつもりです」

店舗も一新し「これからは、お客さまと長いおつきあいができる店づくりを目指したい」と語る三浦社長。年明けとともに、250ccを中心としたスポーツユーザーの開拓プラン作成に、なみなみならぬ意欲を燃やしていました。

■話題のコーナー

ニューウェイ・ライディングウェア

『ジオラマ』好評発売中!

アダルトなファッションセンスが受けています。しかもライディング機能はバッチリ。ファッションと機能の2大要素をマッチングさせた、新しい感性の高品質ライディングウェア『ジオラマ』。この冬、スポーツバイクのお客さまはもちろん、スクーターのお客さまにも、ぜひおすすめください。

新しい感性の発進。

モーターサイクルシーンの新しい感性、ライディングウェアは発進し始めた。Something New感覚——『ジオラマ』。



georama ツーリングスーツ 限定

georamaブルゾンと同一デザインのツーリングスーツ。ワンピースタイプのフル装備付きです。●素材/420DナイロンO X ドリアン加工、アルミ蒸着中綿、ポリエステル加工 ●カラー/ジェットブラック & ブラックテープ ●サイズ/M、L ●価格/¥22,000



georama メタリックブルゾン 限定

メタリックシルバーの大胆な切りかえしと、レッドのパイピングが印象的なライト感覚のツーリングブルゾン。春先にぜひおすすめください。●素材/210D ナイロンO X、2000Mウレタンコーティング、ポリエステル中綿 ●カラー/メタリックシルバー & ブラック ●サイズ/M、L ●価格/¥16,000

georama メタリックスーツ 限定

メタリックシルバーをポイントに、大胆に、しかも若々しくデザインしたツーリングスーツ。●素材/210D ナイロンO X、2000Mウレタンコーティング、ポリエステル中綿 ●カラー/メタリックシルバー & ブラック ●サイズ/M、L ●価格/¥18,000



georama ブルゾン 限定

バイクウェアのイメージを変える洗練されたデザイン。スミ黒地に黒テープのコーディネートが、アダルトな雰囲気をかもし出します。素材は耐水透湿コーティングマテリアル。高速券の入る2重裏ポケットも装備。●素材/420D ナイロンO X ドリアン加工、アルミ蒸着中綿、ポリエステルテープ ●カラー/ジェットブラック & ブラックテープ ●サイズ/M、L ●価格/¥20,000



georana



※写真は「georana」のクルージングレザースーツ、ウインターグローブとヘルメット

■ディスプレイワンポイント

「同一ブランドでコーナーをまとめよう」

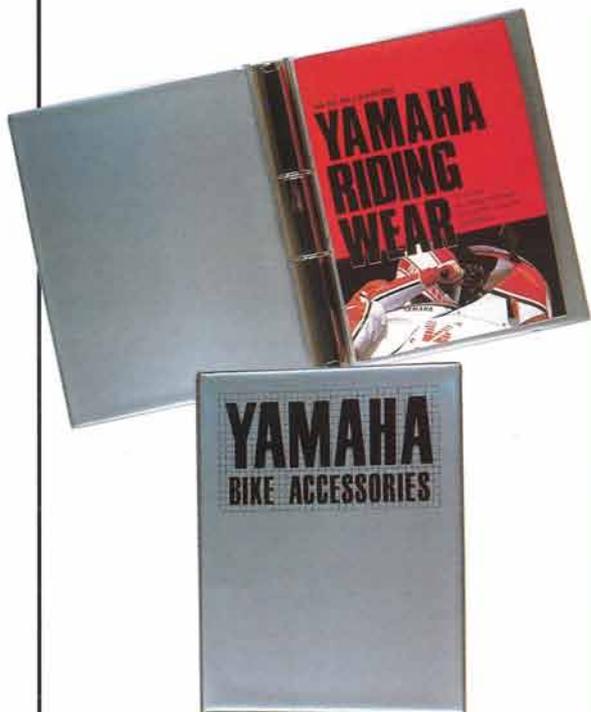
お店に個性が求められているように、いま、用品コーナーにも個性が求められています。ただ、在庫用品をスラリと並べるだけではなく、他店とはひと味もふた味も違った演出が必要。ターゲットを絞り込んだり、季節商品をまとめたり、主力販売車種の関連用品を揃えたりして、個性あふれるディスプレイを展開してください。たとえば、同一ブランドのグッズを揃えるのもひとつの方法。いま評判のライディンググッズ・ブランド「georana(ジオラナ)」のヘルメットやウェア、グローブ類をまとめて、アダルト感覚あふれるコーナーを演出すれば、グーンと高級なイメージが店内に漂うこと間違いなしです。

■インフォメーション

おそろえください！ ウェアカタログ & バインダー

銀色ビニール製のタフな作りのカタログ用バインダーができました。

このバインダーは、先きに完成したくヤマハライディングウェアカタログをはじめとした一連の部品・用品カタログをファイルするために作られたもの。お店に1冊、おそろえください。



■カラーが違うヤマハグッズ

「存知ぶか」ディンプル加工

1500万人バイクユーザー時代に合わせて開発した「ORGANIC(オーガニック)レインスーツ」の人気の理由をあげれば、なんと1つでも3,800円という低価格でしょう。

とはいえ、その機能もなかなかのもので、全国のバイクユーザーの間で高い評価を集めています。なかでも100%防水性を誇る塩化ビニールに施した「ディンプル加工」は、着やすさ、動きやすさ、フィット感のよさ、と3拍子そろって大好評を博しているもの。

「ディンプル加工」とは、特殊な凹凸加工のことですが、これがムレ感を最小限に抑えたり、濡れたシートでの滑りを抑えたり、多少のストレッチ性をもたせてフィット感を高めたり、寒冷時での冷たさを伝わりにくくしたり……と、多岐にわたって効果を発揮しているのです。

低価格ながら多機能な「ORGANICレインスーツ」は、被視認性のすぐれたカラフルなツートンカラーのデザイン。皆さまのお店でも、ぜひ写真の5バリエーションをおそろえください。



●ディンプル加工

THE LATEST AD GUIDE

気持ちが、スポーツしてしまう。

SRX250Fにニューカラー登場。写真のアンダーカウルはオプションです。

新しい趣味生活
SRX250
LIGHT SPORTS

人間にやさしい乗りものなんだ。YAMAHA

ヤマハのデザインングスクート(YRS)に追加。また、全日本選手権や全日本学生選手権で活躍しているように、1985年でも人気がある。全コース、最速から遅速まで対応できるスーパーコースター。全日本選手権や全日本学生選手権で活躍しているように、1985年でも人気がある。全コース、最速から遅速まで対応できるスーパーコースター。全日本選手権や全日本学生選手権で活躍しているように、1985年でも人気がある。全コース、最速から遅速まで対応できるスーパーコースター。

HAVE A NICE RIDE! ナイスライディングをよろしく

●全日本選手権や全日本学生選手権で活躍しているように、1985年でも人気がある。全コース、最速から遅速まで対応できるスーパーコースター。全日本選手権や全日本学生選手権で活躍しているように、1985年でも人気がある。全コース、最速から遅速まで対応できるスーパーコースター。

- ブラックとホワイト、斬新なニューカラー・グラフィックで新登場したSRX 250 Fの広告が、いま発売中の2輪専門誌を飾っています。
- 当初の狙いどおり、スポーツバイクの新規ユーザー層の開拓をつづけてきたSRX 250にも、最近ではモーターサイクルに走りを楽しむヤングからの大きな支持が集まっています。
- 軽量・スリム・コンパクト……ライトスポーツSRX250ならではのスポーティな走り、条件によってはレーシースポーツをもおびやかすスーパーシングルの運動性能が、改めてみなおされているからです。
- '84年度通産省グッドデザイン商品(Gマーク商品)にも選定された洗練されたスタイルに、鮮やかなイメージのニューカラー・グラフィック……'85年、SRX250はヤングのモーターサイクルライフをさらに幅広く拡大してまいります。